

本だな

『ゴリラのおとうちゃん』
ゴリラのおとうちゃんと子どもが木かげでからだ遊びします。
「なあ おとうちゃん あそんでうや」なんや またかいな。
関西弁が、ほのぼのとした味わいです。「すべりだい」「ひこ
うき」「たかい たかい」。あ、これが家でもやつていたなあ
— そんな親子遊びの定番の数々

『いっぽんの木のそばで』
丘の上で、男の子が埋めただんぐりが芽を出し、オークの木が現れます。木は枝を広げながら育ち、周りでは街が発展していきます。やがて木は200歳になります。ある嵐の日、木は雷に二つに裂かれ、根元から切り倒されますが……。生の営みを、雄大なスケールで描きます。(G.

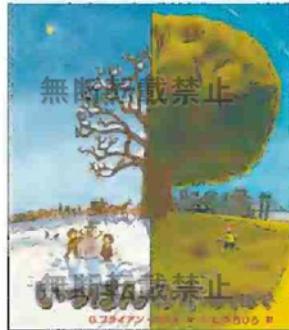
『おねえちゃんにあった夜』
少年の誕生前に死んだ「おねえちゃん」。ある日、少年の耳に姉の声が聞こえ、その夜、姿を現した姉と自転車で出かけます。公園で船に乗り込む姉を見て、「ずっと感じていた大きな悲しみ」に襲われる少年。姉の死を受け入れ、不思議な糸を結びます。(シェフ・アールツ文、マリット・テルンク

『おいぼれミニック』
部の都市に住むインド系移民一家と、人種差別的な暴言を吐く隣人ととの関わりを描きます。一家の末っ子ハーヴェイは、隣人ミックの言動にいら立ちながらも、窮屈の彼を一度ならず助け……。少年のまっすぐな心が人を動かす。異文化交流の実相をユーモアいっぱいに描き、読みます。(バリ・ライ著、岡本さゆり訳、あすなろ書房、1200円)

親子遊び 定番の数々



生の営み 雄大に描く



死んだ姉と結んだ糸



差別的隣人との交流

